

## CONTENTS

編集長ブログ  
blog-mag.ipsj.or.jp

### 《記号の説明》

■ 基 礎

■ 専 門

■ 基礎

■ 応用

■ 専門家向け

■ 一般（非専門家）向け

※各記事に指標がついてい  
ますので参考になさって  
ください

### 《巻頭コラム》

テクノロジー、テクノロジスト、テクノロジー学会の未来 Dejan S. Milojić

### 《特別解説》

904 ■ チューリングテスト「合格」のシステム 東中竜一郎

### 《特集》

## サイバーフィジカルシステム

- 908 0. 編集にあたって 中島達夫・加藤真平
- 910 1. ■ サイバーフィジカルシステムの概要と動向 加藤真平
- 916 2. ■ サイバーフィジカルシステムを支える技術—フィジカルシステムを理解する 安積卓也
- 922 3. ■ フィールド実証実験（FOT）に向けて 平野清美・武田一哉
- 928 4. ■ 実体情報学が拓く世界—サイバーフィジカルを指向した人材育成プログラム—  
菅野重樹・小林哲則
- 934 5. ■ 次世代 CPS のためのソフトウェアインフラストラクチャ 中島達夫・坂本瑞季・秋岡明香
- 939 6. ■ 家電の常時接続 石川広男
- 941 7. ■ ライフサポート：ICT を活用したヘルスケア 川森茂樹・大谷司郎
- 943 8. ■ クルマの自動走行 加賀美聡
- 946 9. ■ フィールドサーバとウェアラブル端末による農作業情報共有の試み 辻澤隆彦
- 948 10. ■ CPS 技術を利用した排出権管理 佐藤一郎
- 950 11. ■ サイバーフィジカルシステムにおける説得工学の利用 吉井章人・藤波香織
- 952 12. ■ 行動をデザインする：人の行動を促す人間-環境インタラクションデザイン  
松山洋一・中川 純・渡井大己・林 明宏・遠田 敦・和田康孝

### 《特集》

## ビッグデータ：世界を変えていくイノベーションの原動力として

- 956 0. 編集にあたって 石井一夫・水田正弘・中野美由紀
- 958 1. ■ ビッグデータ時代の次世代ダッシュボード 池内孝啓
- 964 2. ■ 医療におけるビッグデータ利活用—精神神経系疾患の診断系の開発を中心として— 石井一夫
- 970 3. ■ クラウドサービスを用いたビッグデータ活用事例 吉荒祐一
- 976 4. ■ Hadoop によるビッグデータプラットフォームを用いた情報駆動型企業へのアプローチ  
水丸 淳
- 982 5. ■ シェルスクリプトを用いたビッグデータ活用の事例—コンピュータを使い切る— 當仲寛哲

《解説》

- 990 ■ 「ウェアラブル」の未来予想図 森川博之
996 ■ MMT により実現される 4K/8K 放送システム—メディアトランスポート技術の 20 年ぶりの大改定— 青木秀一

《シニアコラム: IT 好き放題》

- 903 ■ UCL-CS 留学時代の思い出 村山優子

《教育コーナー: ぺた語義》

- 1003 ■ 人間力を磨くことが成功への鍵! 石川拓夫
1004 ■ 認定情報技術者制度(2) —個人認証制度の概要— 芝田 晃
1008 ■ 新潟国際情報大学における情報システム教育改善の取り組み— JABEE 認定継続審査を受審して— 小林満男

《トピックス》

- 1012 研究会推薦博士論文速報

《連載: ビブリオ・トーク—私のオススメ—》

- 1022 機動警察パトレイバー 風速 40 メートル 金岡 晃

《学会活動報告》

- 1024 情報技術の国際標準化と日本の対応 — 2013 年度の情報規格調査会の活動— 情報規格調査会

《連載: 会誌編集委員会女子部》

- 1034 FIT2014 イベント企画「女子部番外編」やります! 加藤由花
1035 チーム情報処理 野田夏子

会誌編集委員会
編集長 塚本 昌彦
担当理事 加藤 由花 角 康之
本号エディタ

五十嵐悠紀
石井 一夫
小野寺民也
掛下 哲郎
加藤 真平
金岡 晃
金子 格
上條 浩一
河口 信夫
木下 哲男
駒谷 昇一
貞光 九月
辰己 丈夫
谷 幹也
田村 大
辻田 眸
鶴岡 慶雅
土井 千章
中島 達夫
中野美由紀
永野 秀尚
西山 博泰
濱崎 雅弘
坊農 真弓
松崎 公紀
水田 正弘
村上 知子
吉岡 信和
和田 康孝

編集スタッフ
後路 啓子
町田 善江
守田真紀子
綿谷 亜樹

Diagram of a Go board (9x9) showing a game between Shiro (white) and Crazy Stone (black). The board is numbered 1-81. A caption below reads: ◯●表紙の囲碁の局面について●◯
この対局は、2013年3月20日に電気通信大学で開催された第1回電聖戦でコンピュータ囲碁「Crazy Stone」が石田芳夫九段(第24世本因坊秀芳)に挑んだものである。電聖戦は、2012年に日本棋院と電気通信大学の間でコンピュータ囲碁の発展に関する提携が結ばれ、それを受けて開催された初のプロ棋士とコンピュータ囲碁との置碁による公式の定期戦である。下手ごなしとして有名な石田芳夫九段に対して、コンピュータが4子でどこまで戦えるかというところが見どころとなった。結果は、石田九段も驚くほどの打ち回しを見せた Crazy Stone が優勢に進め、終盤石田九段の追い上げがあったものの、3目差で勝利を取めた。表紙の局面はその64手目、Crazy Stone が優勢を築きつつある局面である。
◀石田芳夫九段 vs Crazy Stone (4子局) 2013年3月20日 第1回電聖戦より

- 902 巻頭コラム原文
955 会誌「情報処理」56巻表紙デザイン募集!!
1021 英文目次
1036 会員の広場
1038 IPSJ カレンダー
1040 人材募集
1047 有料会告
1048 論文誌ジャーナル掲載論文リスト
1048 論文誌トランザクション掲載論文リスト
1050 アンケート用紙
1051 次号予定目次
1052 編集室
1053 掲載広告カタログ・資料請求用紙
1054 賛助会員のご紹介

複写される方へ
本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません(社外頒布用の複写は許諾が必要です)。
権利委託先: 一般社団法人学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル
E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619
なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、本会へご連絡ください。
また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600
Notice for Photocopying
If you wish to photocopy any work of this publication, you have to get permission from the following organization to which licensing of copyright clearance is delegated by the copyright owner.
<All users except those in USA>
Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
E-mail: info@jaacc.jp
Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619
<Users in USA>
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600



# 情報処理

2014  
9

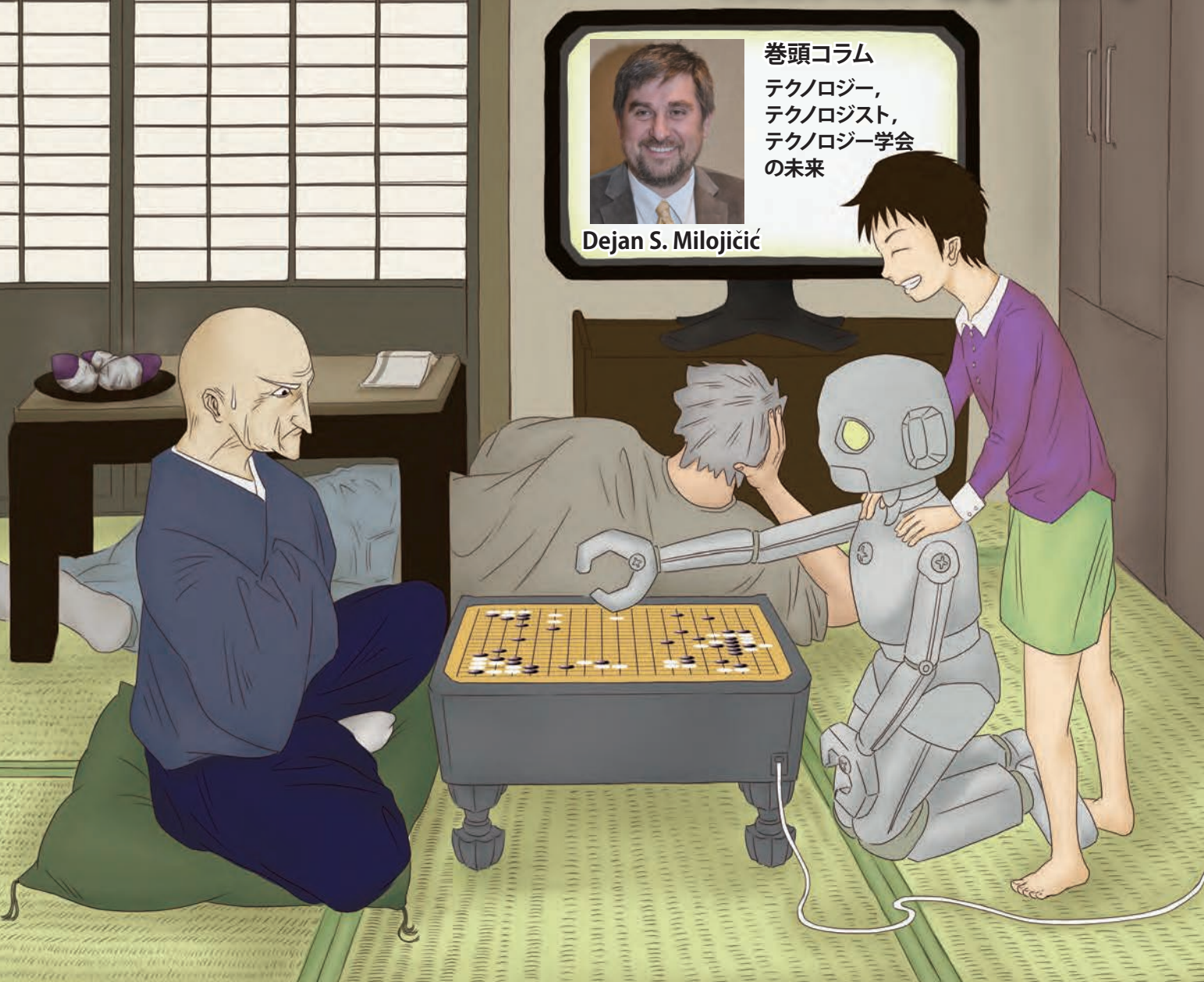
Vol.55 No.9 通巻 594 号



Dejan S. Milošević

巻頭コラム

テクノロジー、  
テクノロジスト、  
テクノロジー学会  
の未来



特集 サイバーフィジカルシステム

特集 ビッグデータ：世界を変えていく  
イノベーションの原動力として



**A5サイズ**のコンピュータ  
**① 車載CD**

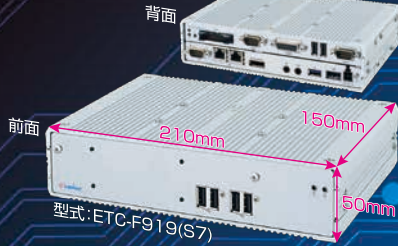
型式:ETC-F019(S7)  
CPU:Atom E3845 1.91GHz  
メモリ:4GB  
OS:Windows Embedded Standard 7  
起動デバイス:CFast(16GB)  
補助デバイス:CFast×1スロット  
ディスプレイ:DisplayPort×1  
電源電圧:DC 0V~+40V(最大定格電圧)  
DC +7V~+37V(連続動作時)  
動作温度範囲:-30℃~+70℃



CPU処理	Atom E3845
	Atom N2800
	Atom E680T
	0 10000 20000 30000 40000 50000
	CrystalMark 2004R3 による、弊社実測値です。

**② 車載CD**  
**片面集中モデル**

**I/Oポートを片面に集中**させ、片側をすっきり使いやすくしました。



NEW

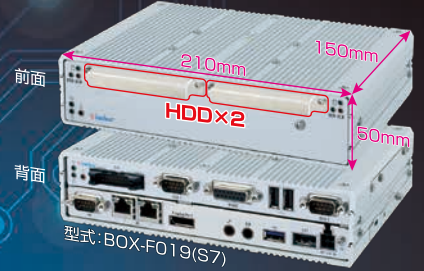
**③ タフコンCD**

**13種類のI/O構成**から自由に選択  
デジタル入出力、アナログ入出力、TEDS、  
モーションコントローラ、通信、NTSC、  
光Express、カウンタ、DeviceNet、HDLC



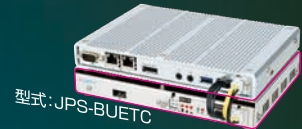
**④ BOX型CD**

2.5インチ HDD×2搭載し、**RAID0/1**に対応。



NEW

**瞬低対策用バッテリーモジュール**



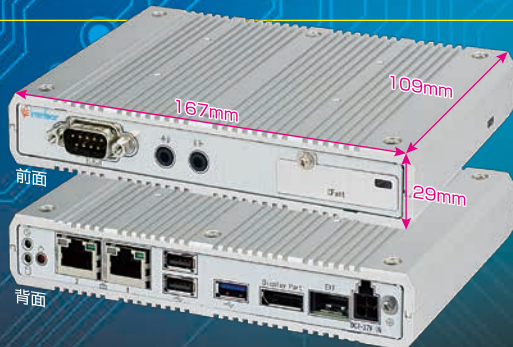
# Bay Trail搭載機 発売中!

Atom E3845(4コア) **FANレス・HDDレス** メンテナンスフリー **温度範囲 -30℃~+70℃** 電源ブチ切り

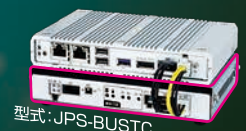
別オプション 防湿コーティング対応・スクリーニング対応・修理サービス延長契約・瞬低対策

**はがきサイズ**のコンピュータ  
**⑤ 省エネCD**

型式:ETC-G019(S7)  
CPU:Atom E3845 1.91GHz  
メモリ:2GB  
OS:Windows Embedded Standard 7  
起動デバイス:SSD(8GB)  
補助デバイス:CFast1×1スロット  
ディスプレイ:DisplayPort×1  
電源電圧:DC 0V~+40V(最大定格電圧)  
DC +7V~+37V(連続動作時)  
動作温度範囲:-30℃~+70℃



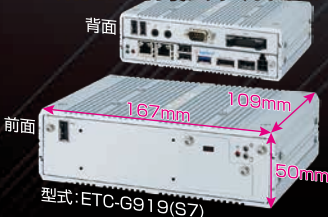
**瞬低対策用バッテリーモジュール**



本製品と各CDシリーズと接続することにより、瞬断が発生しても、継続動作することができます。市販のeneloop pro、eneloop(単3形)が利用でき、電池の取り替えも容易に行えます。動作温度範囲は0℃~+50℃になります。上記温度範囲以外でご利用する場合は、CDシリーズと隔離してご利用ください。

**⑥ 省エネCD**  
**片面集中モデル**

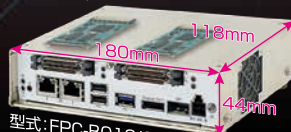
**I/Oポートを片面に集中**させ、片側をすっきり使いやすくしました。



NEW

**⑦ I/O CD**

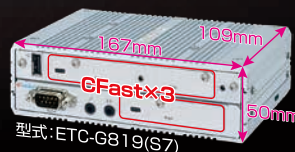
**37種類のカードから4つの組み合わせが選択**できます。  
デジタル入出力、アナログ入出力、  
モーションコントローラ、カウンタ、  
GP-IB、RS-232C、RS-485、CAN、  
HDLC、NTSC



型式:FPC-B019(S7)  
※動作温度範囲は0℃~+50℃  
※FAN付き

**⑧ 省エネCD**  
**CFast 3スロットモデル**

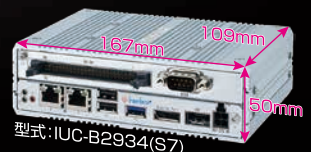
起動デバイスSSD(8GB)と  
**CFast×3スロット**を搭載し、  
データストレージを強化したモデル。



NEW

**⑨ ソルコンCD**

**10種類のI/O構成から自由**に選択  
デジタル入出力、アナログ入出力、  
GP-IB、HDLC、シリアル、CAN、  
DeviceNet、熱電対





# Ohmsha books information!



## ●プロジェクトマネジメント標準手法「PMBOK」のわかりやすい解説書!

### プロジェクトマネジメント標準 PMBOK入門 PMBOK第5版対応版

広兼修 著 A5判/208頁/定価(本体2,000円+税)

本書はプロジェクトマネジメント標準手法「PMBOK」について要点をしぼって解説した書籍です。どういったものがプロジェクトなのか、プロジェクトとは何なのか、を説明した上で、PMBOKの知識体系がどのように現場で生かされているのかを具体的な場面に置き換えて紹介しています。巻末には、事例にそったPMBOK活用法を確認するための小テスト付き。PMBOKガイド第5版の日本語版に対応しています。

## ●プログラミングってこんなに楽しい!

### たのしいプログラミング Pythonではじめよう!

Jason R. Briggs 著  
磯蘭水・藤永奈保子・鈴木悠 共訳  
B5変判/280頁/定価(本体2,800円+税)



世界中で大人気の小難しくないプログラミング言語Pythonなら、覚えることも最小限。この本を読んで、楽しいプログラミングの世界に飛び込んでみましょう!面白い例題やパズルを楽しみながら、愉快でカラフルなイラストと一緒にカッコいいプログラミングを学ぶことができます。

## ●工程の「見える化」と計測がソフトウェア開発を成功に導く!

### チケット&計測で ITプロジェクト運営の体質改善

神谷芳樹 著  
A5判/168頁/定価(本体2,400円+税)



本書は、チケット駆動などの定番ソフトウェア開発環境から自動的に収集したデータに基づき、プロジェクトの進捗状況や課題を可視化する「見える化」ツールについて、その導入から運用までの方法を解説します。可視化データのサンプルと分析例も多数収録、「デスマーチ」を回避しつつ成果物の品質向上に欠かせない最新のソフトウェア生産技法がこの1冊で見逃せる解説書です。

## ●ユーザ中心のインタラクションデザイン実践ガイド!

### ユーザビリティエンジニアリング 第2版 ユーザエクスペリエンスのための調査、 設計、評価手法

樽本徹也 著  
A5判/282頁/定価(本体2,500円+税)



本書はユーザビリティエンジニアリングのテクニックを設計の現場で活かし、実践できる書籍です。第2版は「調査・分析」「設計」「評価」の三部構成とし、実践ガイドとして使いやすくなったほか、「ペルソナ」を用いた「認知的ウォークスルー」にも言及しました。さらに、ユーザが真にやりたいことを「楽しく」行える点を別の「提供価値」として考える「ユーザエクスペリエンス」についても言及しています。

## ●リーンソフトウェア開発の実践経験を具体的に語る!

### リーン開発の現場 カンバンによる大規模プロジェクトの運営

Henrik Kniberg 著  
角谷信太郎 監訳/市谷聡啓・藤原大 共訳  
A5判/208頁/定価(本体2,400円+税)



“Lean from the Trenches: Managing Large-Scale Projects with Kanban”の翻訳版です。官公庁の大規模システム開発プロジェクトにおける著者の経験に基づき、理論だけではなく、開発の現場で実際にどのように適用するかを、直截的に解説しています。リーンソフトウェア開発について、実践的な内容を求めている方、これから現場へ導入したい方にお勧めの一冊です。



オーム社

〒101-8460 東京都千代田区神田錦町3-1  
TEL 03(3233)0853 FAX 03(3233)3440

[www.ohmsha.co.jp](http://www.ohmsha.co.jp)

定価は変更になる場合があります。

**初歩から学ぶ 情報リテラシー**

=Office 2013/Windows 7, 8 対応

吉田郁子 著 B5・232頁 2500円  
パソコンを使用したコンピュータリテラシー教育のテキスト、参考書。Windowsの基本からWordやExcelの活用、Power Pointの使用法、インターネットによる情報収集など幅広く丁寧に解説している。**電子情報工学ニューコース15****電気情報数学**水本哲弥 著 A5・176頁 2500円  
電気・電子、情報の分野で必須の応用数学の教科書。フーリエ級数、フーリエ変換、離散フーリエ変換、ラプラス変換、z変換の基礎と解法の手順を解説する。数式の導出や問題の解答も詳細に記述し、独習書としても好適である。**情報科学のための  
論理分析テクニク**戸田誠之助 著  
A5・160頁 2400円

「論理学を道具として使い、論理分析テクニクのマニュアルを読者に提示する」ことを目的に著された、計算論教育の専門家による実践的テキスト。情報系のみならず一般の読者にとっても有益な書である。

**薬学生のための基礎シリーズ8  
情報リテラシー**宮崎 智・和田義親・本間 浩 共編  
B5・200頁 2500円

情報理論の考え方や情報処理の仕組みを理解し、情報機器を道具として利用できる態度を身につけることを目標に掲げている。また、モラル、セキュリティー、著作権などについてもふれている。

**情報システムのための  
情報技術辞典**情報システムと情報技術辞典編集委員会 編  
B5・1024頁 39000円

情報技術に関する項目、約1500項目について理論・概念・技術、および機器の原理としくみについて解説する。

情報技術の基礎 A 人文・社会科学と自然科学 1.情報環境 2.経営 3.人間工学・心理学 4.OR・問題解決法 5.システム制御・通信 6.パターン認識・人工知能 7.確率・統計 8.オートマトン・計算理論 9.アルゴリズム 10.数値解析 11.数学  
情報技術の基礎 B コンピュータとネットワーク 1.コンピュータシステム 2.マシンインターフェイス 3.プログラミング言語 4.オペレーティングシステム 5.データベース 6.アプリケーション 7.ソフトウェア工学 8.ネットワーク 9.セキュリティー 10.AI 11.CG 12.基礎・一般**Cで計算!**

=基礎からはじめるプログラミング

首藤健一 編著/眞銅雅子・中津川 博・松井和己・蔵本哲治 共著

B5・184頁 2300円

コンピュータに具体的な指示を与えて実用的な計算を行うための基本事項を著した書。プログラミング言語Cの必要最小限の文法のみでプログラムを記述する能力を培えるように工夫されている。細かい文法の知識よりもデータ処理の流れを身につけることを目標とし、高校数学程度の簡単な(でも手作業では難しい)計算を題材として、多くの具体的例題(プログラムや実行例)を解説する。くわえて、初学者が陥りやすいミスや誤解を極力減らすために、実用的知識や注意すべき事項を適宜与えるなどの配慮もなされている。コンピュータを使う「道具」としてもっとも普及しているCを用いて、一通りのプログラミングができることに重点をおいた初学者にうってつけの書。

**ベイジアンネットワーク概説**

繁樹算男・植野真臣・本村陽一 共著

A5・128頁 2700円

ベイジアンネットワークの基本であるグラフ、確率、因果推論についてはじめに説明した後、モデルづくりの数理的基礎、確率推論アルゴリズム、実際問題への応用などを丁寧に解説した、コンパクトな入門書。

**とめ 株式会社とめ研究所****知能情報処理技術をコアコンピタンスとした  
ソフトウェア研究開発受託会社****人と機械の共生でもっと生活を楽しく**

- ・ポスドク相当の技術者が共同研究者のように研究開発の加速推進に貢献します。
- ・情報関連だけではなく、数学、物理学の研究室出身者なども多く、多様な課題をお客様とともに解決します。
- ・画像処理、数値解析、自動化、データマイニング 他

**面白い事をやって社会や生活を変える**URL : <http://www.tome.jp> E-mail : [info@tome.jp](mailto:info@tome.jp)

# FIT2014 第13回情報科学技術フォーラム

会期 2014年9月3日(水)~5日(金)

会場 筑波大学筑波キャンパス (茨城県つくば市天王台1-1-1)

# 参加募集



電子情報通信学会(情報システムサイエンス・ヒューマンコミュニケーショングループ)と情報処理学会とは2002年から合同で毎年秋学期にFIT(Forum on Information Technology)を開催しています。

FIT2014では、当日も聴講参加受付を致します。皆様お誘い合わせのうえ是非ご参加ください。

FIT2014公式Webサイト <http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2014/>

## イベント企画の開催予定

### ◆ FIT 学術賞表彰式

4日 13:00-13:50 第1イベント会場 (3A棟2F 3A204)

### ◆ 船井業績賞受賞記念講演

4日 14:00-15:15 第1イベント会場 (3A棟2F 3A204)  
「日本を離れて研究をするために」  
辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチアジア 首席研究員)

### ■ 第1イベント会場 (3A棟2F 3A204)

3日 13:00-15:00  
大学発ベンチャーの現在:東大・情報理工学系研究科を起点として  
15:30-17:30  
エクサスケールコンピューティング時代の大学スパコンセンターの役割

4日 15:30-17:30  
新しい時代の情報保護と情報利活用 -セキュリティ技術、法律、マネジメント-

5日 09:30-12:00  
情報の流れに着目した実時間分散処理基盤 -IoTとクラウドソーシングの観点から-  
13:00-16:00  
2020年のサイバーセキュリティ戦略 ~東京オリンピック・パラリンピックに向けて~

### ■ 第2イベント会場 (3A棟4F 3A402)

3日 10:00-12:00 会誌「情報処理」編集委員会女子部 ~番外編!~  
13:00-15:00 映像符号化・配信技術の最新標準化動向  
15:30-17:30 DTN最前線 ~時空間を超えてデバイスを紡ぐ新しい情報基盤へ~

4日 09:30-12:00 自然計算研究の最前線とその将来  
15:30-17:30 電子ポイント(仮想通貨や企業ポイント)について語る

5日 13:00-16:00  
CPS(サイバーフィジカルシステム)最前線  
-実世界のビッグデータはどのように活用されているか-

### ■ 第3イベント会場 (3A棟4F 3A403)

3日 13:00-15:00 移行工学改め引退工学  
15:30-17:30  
新しい個人情報保護の枠組みとパーソナルデータの匿名化措置はどうか?

4日 09:30-12:00  
時空間を制限したプライバシー情報保護活用のための社会基盤の構築に向けて  
15:30-17:30  
イノベーションを生み出すビジネスモデルに直結した情報システムを構築するには

5日 10:00-12:00 コミュニティによるものづくりとサイバーワールド

5日 13:00-16:00  
The 2nd ARC/CPSY/RECONF High-Performance Computer System Design Contest  
(第2回 高性能コンピュータシステム設計コンテスト)

## ● 聴講参加費

参加区分	事前予約(7/11まで)	当日
正会員	8,000円	10,000円
非会員(一般)	17,000円	20,000円
学生(会員・非会員問わず)	無料	無料

## ● 会員、非会員、学生の参加区分の区別は以下の通りです。

会 員: 電子情報通信学会、情報処理学会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会及び電子情報通信学会と協定を締結した海外の学会(IEIE、KICS、KIISE、IEEE/Com. Soc., IEEE/PHO、IEEE/MTT-S、IEEE/CS)または情報処理学会と協定を締結した海外の学会(ACM、IEEE、IEEE/CS、KIISE、CSI)の個人会員の方に限ります。

非会員: 上記の学会会員以外で学生以外の方。

学 生: 会員/非会員を問わず無料(DVD-ROMは付きません)。

※社会人学生の方も、学生証を総合受付で提示頂ければ無料です。

## ● 懇親会

開催日時: 2014年9月4日(木) 18:00~20:00

会 場: 2B棟1F 第二エリア食堂

参加費(税込): 社会人 5,000円/学生 2,000円

## ● 冊子講演論文集・DVD-ROM販売価格(税込)

申込種別	個人購入価格	法人購入価格
講演論文集セット(DVD-ROM付) *冊子講演論文集全分冊(カバー付き)、 DVD-ROM(プログラム、索引付、全講演論文集収録)	57,000円	57,000円
講演論文集 各分冊 *第1~4分冊の予定	12,000円	15,000円
講演論文集 DVD-ROM *プログラム、索引付、全講演論文集収録	8,000円	55,000円

※学生の方は、会場にてDVD-ROM学割会場販売価格4,000円でDVD-ROMをお求めになります。

【主催】 電子情報通信学会  
情報・システムサイエンス (ISS)  
ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)  
情報処理学会 (IPSJ)

【共催】 国立大学法人 筑波大学

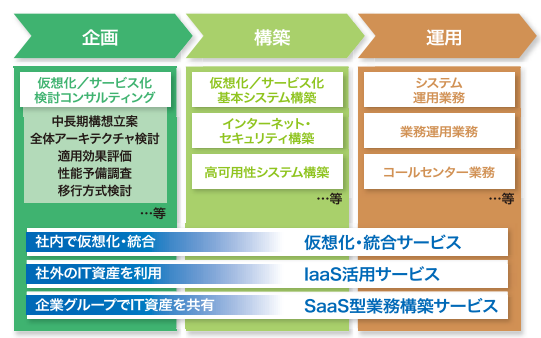
【問合せ先】 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内  
一般社団法人 電子情報通信学会 大会・研究会部FIT担当  
TEL: (03) 3433-6691 FAX: (03) 3433-6659  
E-mail: ieicefit@ieice.org



“クラウド”時代の  
あんしんITサービスを  
ワンストップでお届けします。  
[www.mdis.co.jp/solutions/bizflex/](http://www.mdis.co.jp/solutions/bizflex/)

## 仮想化・統合化からIaaS活用、SaaSの構築まで、 ITシステムの企画・構築・運用を提供。

めまぐるしく変化するビジネス環境の中で、“必要なものを必要なだけ使う”クラウド・コンピューティングへの変革が始まっています。三菱電機インフォメーションシステムズの「BizFLEX（ビズフレックス）」は、サーバー、ストレージ、ネットワークの仮想化・統合化をはじめ、IaaSの活用や企業グループ向けSaaSのご要求に最適なソリューションをご提案。ITシステムの変革を目指す企業のためのワンストップITサービスインテグレーションです。



# BizFLEX

ITサービスインテグレーション



FUJITSU

あなたを、まんやかに。

子どもたちが、もっとワクワクできるように。  
困っている方の、少しでもお役にたてるように。  
私たちの技術や製品は、つねに使う人を想像して進化してきました。

富士通がめざすICTは、そう、人がまんやか。  
暮らしにも、社会にも、そしてすべての基盤となる地球にも、  
もっと寄り添うテクノロジーへ。  
つくりたいのは、あなたのための明日です。

夢をかたちに

shaping tomorrow with you

